

第11回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和元年11月6日(水) 午後1時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 千葉県庁本庁舎16階 農林水産部会議室
- 3 出席者 <構成員>
 県農林水産部水産局漁業資源課長 篠原 克二郎
 県水産総合研究センター次長(資源研究室長事務取扱) 梶山 誠
 東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
 <その他>
 県関係職員12名
- 4 検討事項
 - (1) 令和元年度千葉県資源評価票(案)について
 - (2) 資源管理計画の評価検証(案)について
 - (3) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

第10回会議において、資源評価候補種については、当面の評価実施の総合判断を行うこと、ホンビノスガイについては、現在の情報を関係者間で共有することとなっていたため、事務局及び水産総合研究センター担当者からそれぞれ説明がなされた。資源評価候補種については、次回会議で各魚種の情報共有及び当面の総合判断がなされることとなった。ホンビノスガイについては、資源評価につながる情報の整理、資源管理体制の構築を急ぐ必要があることが確認された。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・(三番瀬のホンビノスガイ資源推移結果等から)構成員から、漁獲量が分かれば、ホンビノスガイの資源評価は可能と考えられる旨意見があり、出席者から三番瀬だけが漁場でないことが評価につなげるための課題である旨発言があった。
- ・議長からホンビノスガイの資源評価につなげるための課題の整理及び資源管理体制の構築を急ぐ必要がある旨発言があった。
- ・構成員からサヨリ、コウイカは資源評価対象種としていくか質問があり、担当者から資源評価に向けた調査内容である旨回答があった。また、資源評価だけでなく、漁獲に結びつための増殖に向けての調査研究に力を入れている旨回答があった。

(1) 令和元年度千葉県資源評価票（案）について

今回、キンメダイ、コノシロ、スズキ、ヒラメ、マコガレイ、マアナゴ、マダイ、アサリ、クロアワビ、メガイアワビ、サザエ、ダンベイキサゴ、チョウセンハマグリ、イセエビ及びマダコの計 15 種の資源評価票（案）について検討し、構成員等の意見を踏まえて必要な修正等を行うこととした。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・出席者からサザエ、イセエビは夷隅地区では刺網の漁獲が減っているという感覚であるが、安房地区は順調であるか質問があり、担当者からサザエについては夷隅地区では新勝浦のデータを使用しており、それ以外のデータも使用すれば結果が変わる可能性もあるが、使用情報からは今回の評価となる旨回答があった。イセエビについては、漁獲量がやや減少しているが、操業隻数も減っており、CPUE は増加傾向であるため今回の評価となる旨回答があった。
- ・構成員から漁獲量について農統のデータを使用すると 1 年遅れてしまい、今の感覚とずれてしまうのではないか、県のデータベースを使用することはできないか質問があり、担当者から県データベースは全県が網羅されておらず、現時点ですべての魚種について県データベースに置き換えることは難しい旨回答があった。一方で、農統については平成 30 年をもって市町村単位の集計がなくなるため、今後は県独自のデータを使用する可能性がある旨発言があった。
- ・議長から港勢調査などのデータの使用についてもよく検討するよう発言があった。

(2) 資源管理計画の評価検証（案）について

事務局から令和元年度の評価検証対象である資源管理計画の評価検証結果について説明があり、構成員の意見を伺った。

- ・構成員から評価の対象となる計画取組期間が分かるよう修正意見があり、修正することとなった。
- ・議長から魚種別の漁獲量が分かるようグラフの修正意見があり、修正することとなった。

(3) その他

事務局から今後のスケジュールを説明し、意見等は特になかった。